

二上山の自然

5

植物

その2

山口龍治

二上山の花は、風に揺れながら、今日も美しく花たちのシンフォニーが聞こえてきます。

アオモジ(青文字) [くすのき科]

アオモジは、山口県・岡山県や九州以南に分布が多く、この辺りでは、あまり馴染みのない樹木です。二上山麓の人家付近に約50本ほど集中していることから、植えられた木が増えたものと思われる。アオモジは雄雌の木がありますが、雌木は1本確認しただけです。このほか関屋小学校付近の山にも数本あり、野鳥が実を食べて広がったものと考えられます。<花期:3月上旬>



ショウジョウバカマ(猩々袴) [ゆり科]

赤い花は猩々(伝説上の赤い顔の動物)の赤い顔のたとえ、ロゼット型(葉が四方八方に広がる)に伸びた葉を袴(はかま)に似せています。英名を訳すと「日本のヒヤシンス」といい、二上山の谷沿いや湿ったところにあり、春の訪れを感じさせてくれる花です。<花期:4月>



ニオイタチツボスミレ(匂い立坪菫) [すみれ科]

ニオイタチツボスミレは、日本固有のスミレの一つで、日当たりの良い山地に多く見られます。すみれ科の多くは、開く花と同時に開かない花が出ます。自花受粉する花は開きません。これを閉鎖花といい、この花からもよく結実します。スミレは、雑種がよくできますので、これを防ぐために自花受粉する花が備わったと考えられます。<花期:4月~5月>



クロフネサイジン(黒船細辛) [うまのすずくさ科]

漢方でこの仲間の根を細辛といい、黒っぽい花を黒船にたとえて名づけられました。四国・九州の山地に多く、二上山にあることはあまり知られていません。花が咲くのに長い年月がかかり、大切にしないとすぐに姿を消し去る植物です。この仲間にフタバアオイ(別名カモアオイ)があり、それを図案化したものが徳川家の紋章三葉葵になっています。<花期:4月~5月中旬>



表紙/ヤマザクラ(山桜) [ばら科]

山桜は花の色の濃い紅山桜と白山桜に分けられています。関西は白山桜ですが、花の色の濃淡があり、大きさや香気の強弱のほか、新芽の色も変化に富んでいます。山桜より約3週間ほど遅く咲く白い花のカヌシ桜は、花や葉の柄に毛があるので区別できます。<花期:3月下旬~4月中旬>



ノカンゾウ(野萱草)【ゆり科】

野にある萱草の意。八重咲きのをヤブカンゾウといい、中国から渡来した草で両種とも、香芝市にあります。「忘れる」の漢字を中国では萱を当てたことから萱草をワスレグサともいいます。万葉集に『忘れ草 我が紐に付く 香久山の 古りにし里を 忘れむがため』(巻3-334)とあります。香久山の麓にある故郷が忘れられず、この草を着物の紐に結んだが、この想いは消えなかったと詠まれています。 <花期:7月中旬~8月>



ナンバンギセル(南蛮煙管)【はまうつぼ科】

ナンバンギセルは、色は別として、形が南蛮から渡来したギセルに似ることから名付けられました。古名を「思ひ草」といい、万葉集の時代にさかのぼり『道の 辺り 尾花が下の 思ひ草 今更々に 何か思はむ』(巻10-2270)と詠まれ、失恋した女性がうつ向き、物思いをしている自分の姿に似たてた名です。ナンバンギセルは、ススキやミヨウガの根に寄生し、平地でも意外な所で見られます。 <花期:10月中旬~11月中旬>



カキラン(柿蘭)【らん科】

花が柿色なのでカキランといいますが。柿蘭の他に花の白い銀蘭や黄色の金蘭があり、これらの3種類のランは、二上山へ行けばたくさん見られた植物ですが、周りの植物など、環境の変化に伴い姿を消しつつあります。

<花期:4月~5月中旬>



マツグミ(松グミ)【やどりぎ科】

マツグミは、アカマツやモミの枝に付く寄生植物です。実は、グミの実に似ることに因みます。二上山にアカマツが多い頃は、たくさん見られました。松は、痩せた山を好む樹木で、落葉が増え、土地が肥えてくると枯れていきます。マツグミは、松とともに消え去る運命の植物です。グミはグイミの略で、刺のある木になる実という意味です。マツグミの実は翌年の春に熟します。 <花期:7月頃>



ヒガンバナ(彼岸花)【ひがんばん科】

秋の彼岸の頃に咲くのでその名があります。別名マンジュシャゲ(曼珠沙華)は、梵語で赤い花の意味と思われそうですが、いくつかの説もあります。日本には昔、中国から薬用として入った植物ですが、食糧難の時代には、何度も水にさらし、毒抜きをして食べた記録があります。奈良県は、他府県よりも見事な群落があり、シルクロードの終着点にふさわしい風物といえます。

<花期:9月下旬~10月上旬>



ムラサキシキブ(紫式部)【くまづら科】

実が美しい紫色なので、源氏物語の紫式部の名が付けられました。本誌第5号の表紙に美しい写真が掲載されています。冬になると葉は枯れ、実だけがいつまでも枝に残っています。(10月頃色づく)このような樹木の多くは、野鳥に実を食べられないと発芽能力が付かないため、内動植物といえます。 <花期:5月頃>